

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.07
2013 July

発行者 琉球病院事務部長
藤田 博文

院長

村上優 (むらかみ・まさる)
1949年生まれ、
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長。2002国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長(併任)を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOベリヤワル会の副会長として活躍。



基本理念

副院長 福治 康秀

琉球病院臨床研究部研究業績年報の発刊について

臨床研究部が発足して、1年が過ぎました。この1年の集大成として、6月14日金曜日に臨床研究部の研究成果報告会、九州大学大学院より黒木教授をお招きしての発足記念講演を行いました。そして、それに伴い研究業績年報の発刊を行います。この研究業績年報の発刊につきましては、とても感慨深いものがあります。今回の業績集は、初めての刊行であり、論文については過去3年までさかのぼって掲載することとしました。

初年度ということもあり、今後への課題も多々残された事も事実であると思います。

今後も、この臨床研究部から、臨床に即したエビデンスをさらに発信し続けていけたらと思っております。そのためにも、夢を追い続け、日々の臨床の中で気づくことを大事にし、最新の情報にアンテナを張り巡らせながら進めていけたらと思っております。

プログラム

平成25年6月14日(金)

第1部 臨床研究部研究業績報告会

18:10~

- 開会のあいさつ・・・本館事務部長
- 臨床研究部発足の経緯・・・村上優院長
- 臨床研究部の意義・・・福治副院長
- 各研究部からの発表報告

第1部 退席

第2部 退席

第3部 退席

第4部 退席

第5部 退席

第6部 退席

第7部 退席

第8部 退席

第9部 退席

第10部 退席

第11部 退席

第12部 退席

第13部 退席

第14部 退席

第15部 退席

第16部 退席

第17部 退席

第18部 退席

第19部 退席

第20部 退席

第21部 退席

第22部 退席

第23部 退席

第24部 退席

第25部 退席

第26部 退席

第27部 退席

第28部 退席

第29部 退席

第30部 退席

第31部 退席

第32部 退席

第33部 退席

第34部 退席

第35部 退席

第36部 退席

第37部 退席

第38部 退席

第39部 退席

第40部 退席

第41部 退席

第42部 退席

第43部 退席

第44部 退席

第45部 退席

第46部 退席

第47部 退席

第48部 退席

第49部 退席

第50部 退席

第51部 退席

第52部 退席

第53部 退席

第54部 退席

第55部 退席

第56部 退席

第57部 退席

第58部 退席

第59部 退席

第60部 退席

第61部 退席

第62部 退席

第63部 退席

第64部 退席

第65部 退席

第66部 退席

第67部 退席

第68部 退席

第69部 退席

第70部 退席

第71部 退席

第72部 退席

第73部 退席

第74部 退席

第75部 退席

第76部 退席

第77部 退席

第78部 退席

第79部 退席

第80部 退席

第81部 退席

第82部 退席

第83部 退席

第84部 退席

第85部 退席

第86部 退席

第87部 退席

第88部 退席

第89部 退席

第90部 退席

第91部 退席

第92部 退席

第93部 退席

第94部 退席

第95部 退席

第96部 退席

第97部 退席

第98部 退席

第99部 退席

第100部 退席



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数
406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい児 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田/バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟棟建替整備の動き
- 進捗状況：実施設計終了
 - 準備工事(中病棟解体及び駐車場整備等) 平成25年5月1日(水)~7月31日(水)
 - 病棟完成予定 平成26年10月 作業療法棟完成予定 平成27年8月
- 夕涼み会(重心病棟 西I、西II) 7月19日(金) 18:00~20:30
- ふれあい看護体験(高校生対象) 7月26日(金)

教育・研修

- 第3回琉球病院ブリーフ・インターベンション研修会 平成25年7月3日(水) 8:30~17:00 院内研修棟
- 第97回発達障害児に関するミニレクチャーと事例検討会 平成25年7月13日(土) 10:00~15:00 院内研修棟
(午前)「自閉症スペクトラムの概念について」 琉球病院 原田Dr
(午後)「自閉症スペクトラム障害の感覚・運動面からの理解と支援」 琉球KIDS 村越 雄二
- 動作法研修会 平成25年7月27日(土) 10:00~12:30 院内ディケア棟
- CVPPP院外トレーナーフォローアップ研修 平成25年7月29日(月) 8:30~17:00

● 地域医療連携室だより

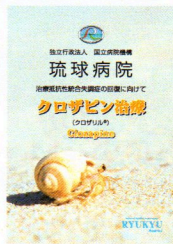
・活動状況 当院では、司法精神医療として医療観察法病棟があります。「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察に関する法律(医療観察法)」に基づいて、指定入院及び通院医療機関としての役割を担っています。裁判所からの処遇決定を受けて多職種チームによる医療を実践し、病状の安定を図り、社会復帰の促進を行うことを目的としています。退院後も通院医療チームが継続的な医療提供と、地域の関係機関と連携し、再他害行為を起こさないための支援を行なっています。

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

空床状況 6月20日現在	精神科病棟 6床	認知症 5床	アルコール 8床	児童思春期ユニット 2床
-----------------	-------------	-----------	-------------	-----------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症に対して、平成22年に1例目の投与を開始し、全症例は81例となりました。平成25年5月の新規導入は3例で、治療経過も良好です。退院数も27例を超えました。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成25年5月の治療実績は6例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

*5月31日にQABのニュース番組の特集Q+リポート「深い心の傷・子どもの性的虐待の実態」の中で、子ども心療科を紹介して頂きました (<http://www.qab.co.jp/news/2013053143571.html>)。性暴力被害にあった子どもたちのケアは時間がかかり、心理教育や認知行動療法を中心に専門的な支援が求められます。当院では多職種で治療にとりくみ、保護者をはじめ関係機関と連携しながら支援を行っています。今後も県内の子どもたちにより良い支援ができるよう、専門性の向上を目的に定期的に勉強会・事例検討会を開催していく予定です。参加をご希望される方はぜひご連絡下さい。

*6月21日に若夏学院の吉川院長をお招きし、勉強会・事例検討会を実施しました。医療者に求められること、子どもたちが入所後どんな支援を受け、社会に戻っていくのか等、理解を深めることができました。

【動作法研修会のお知らせ】

日時:7月27日(土)10:00~12:30 場所:琉球病院デイケア棟 講師:針塚進先生(中村学園大学教授)先着40名

【申し込み・問い合わせ先】 kenshu-child@ryu2.hosp.go.jp

認知症医療

役割と診療状況

中I病棟では、6月19日(水)に栄養科及び作業療法士の皆さんの協力のもと、昼食バイキング会を実施しました。

今回の昼食バイキング会は病室からベッドを運び出したり、リクライニング車イスに移動し、総勢35名の患者さんが食堂ホールに集合しました。食事前には口腔体操を兼ねて童謡を数曲合唱したり、体操を行いました。患者さん達は体操途中から待ちきれないような表情で配膳室を覗き込んでいました。いざ食事配膳が始まると、「美味しそう」という声や笑顔がみられ、大きなコロッケやプリンに大満足な様子で、いつもより大人数で食べる昼食会は大盛り上がりでした。



アルコール・薬物依存医療 (アルコール依存症治療薬「レグテクト」について)

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の強い飲酒欲求を直接和らげてくれる作用があります。このことから、従来の抗酒剤とは違い、断酒補助薬と呼ばれる、新しいタイプの薬です。ただし、レグテクトは単に薬を飲むだけではなく、心理社会的療法と併用することが条件となっています。つまり、依存症に対する教育、知識が重要なのです。当院では、アルコール依存症の入院治療として、アルコール・リハビリテーション・プログラムを受け、外来治療でも主治医による心理教育を受けていただきます。このように心理社会的療法を受けながら、レグテクトを内服することで、相乗効果として効果が出ます。実際の効果として、断酒率が約1割あがります。従来の自助グループ(断酒会など)、抗酒剤にとってもかわるようなものではなく、自助グループ、抗酒剤に加えて、治療法が一つ増えるというイメージです。

当院では、このレグテクトを発売開始直後から、すでに多くの患者さんに処方しています。また、当院は、レグテクトの開発段階の途中から、治験に参加し、レグテクトを世に出すことに貢献致しました。

従来の治療に加え、レグテクトという薬が増えたことで、一人でも多くの方の断酒のお手伝いができることを願っております。興味のある方は、当院までご連絡下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

R-ACT(ラクト)チームの活動について(当院多職種チーム)

厚生労働省の研究で、「地域生活中心」を推進する。地域精神科医療モデル作りとその効果検証に関する研究へ「地方モデル班」として参加をしています。今年度東京での第1回目の研修会へ参加しました。(5月10日・11日)この検証は、重症の精神障害者に対して地域で安定した生活をするために、ACTで支援を行なっている研究です。当院は24時間、356日支援できるACT体制ではありませんが、通院利用者の希望や夢に寄り添いながら、夢を具体的に達成できるように小さな希望から叶うことができるように支援をしています。現在9名の対象者について検証をしています。

臨床研究部の活動状況

【第1回臨床研究部研究成果報告会】

平成24年度より臨床研究部が発足し、この1年間、院内で取り組まれた多くの研究が県内・県外・海外に向けて発信されました。その研究成果を報告する会を6月14日(金)に開催しました。今回は九州大学専門職大学院の黒木俊秀教授をお招きし「当世、抗うつ薬開発事情」というテーマで記念講演をしていただきました。うつ病の疾病概念の変化、薬物療法の効果・開発などうつ病治療に関する最新事情を講演していただきました。

